

北陸学院同窓会々報

発行責任者
小崎 淳子

第 61 号
2022年7月



「つながりの重み」



会長 小崎 淳子
(小崎)
(昭和39年度卒)

マスク着用も日常生活の一部となり、この暑さでも皆さまは手作りや刺繍、涼しさなどを求めてマスクでいろいろ楽しんでるように見受けられます。昨年一二月には二年ぶりに院長先生、校長先生をお招きしてクリスマス礼拝を持つことが出来ました。コロナ禍の中のことですので、心配していただけですが、マスクをつけて讚美歌を小さな声で歌うだけでも主を賛美することができました。礼拝終了後、皆さまからの部活、同好会支援金を校長先生にお渡しすることが出来ました。昨年は校庭のテニスコートの夜間照明の一部金になったようです。少しでもお役に立てれば幸いです。

今年の春の訪れは穏やかな日が続ぎ、梅に始まり、桜、雪柳、花みずき、青い空に白い花を乗せた辛夷や木蓮、藤の紫など本当にきれいな色をそれぞれが見せてくれました。

そして五月の青々とした若葉、コロナ感染予防の我慢が弾けたように思いました。

この二年間は本当に活動が制限され、話すこと食べに行くこともままなりません。制限されること

いうことはこんなにも孤独になるのかとつくづく考えさせられました。

そう言う状態の時、「元氣?」「どうしてる?」「声が聞きたくなったので電話したよ」という友のひと言、うれしくって涙が出ました。何年会っていないくても一声聞いただけです。若き日に戻ることが出来ました。

同窓生もそうです。ミッション卒業したよ、それだけでもうお友達気分です。これが長い歴史のつながりなのではないでしょうか。

一つ一つ積み重なって今があると思います。大事にしたい重みです。

このコロナ禍の中でもうれしいお知らせがありました。二〇一七年六月に植樹しました桜がどうにも相性が悪かったのか咲きませんでした。そこで昨年改めて新しい桜を植えて頂き、まだ若い桜でしたがうれしいことに四月入学式に咲いて新入生を祝っているようでした。

下の写真は四月のバイブルクラスの後で皆様と一緒に桜の木の下で撮った写真です。

来年はもっともっと花が満開に咲くことを、そしてコロナに負けないようにと祈っております。



「力が出て行く」



学院長 楠本 史郎

「イエスは、自分の内から力が出て行ったことに気づいて、群衆の中で振り返り、『私の衣に触れたのは誰か』と言われた。」

マルコによる福音書 五章三〇節
(聖書協会共同訳)

高校生だった時、厳しい先生がいました。英語の授業で毎回、試験をします。成績が悪いと、呼び出し、補習を受けさせます。生徒たちはこの先生を恐れ、嫌いました。「鬼だ」と陰口を言いました。みなさんが学院におられたころも、そんな先生がいたかもしれません。

教える身になって、その先生のことを思い出しました。それがどんなに大変なことだったのか、身をもって知りました。毎回の授業の準備だけではありません。テストも毎回、作ります。その度に、全員の採点をします。生徒を呼び出し、補習をします。ずいぶんと手間のかかることです。時間も取られません。それで収入が増えるわけではありません。その上、生徒からは「鬼だ」と言われ、嫌われます。それでも試験を続けます。それは、生徒たちが力を着けてほしいと願ったからでしょう。愛したからこそ、そんな大変な手間もいとわなかったのでしょう。主イエスが、長年、病気で苦しんできた女性と出会いました。癒してくださいました。それは、簡単

なことではありませんでした。超能力や魔術のようなもので、たやすくできるものでもありません。この人を癒すため、主イエスの力が出て行きました。力を使いました。消耗したのです。

人と出会うのには、力を使います。相手の話を集中して聞きます。考えて答えます。時には、ぶつかります。消耗してしまいます。そうして初めて、人と深く触れ合うことができます。

主イエスは、そのように、ご自身をすり減らしながら、私と向き合ってくださいます。出会い、救ってくださいます。北陸学院は、この主イエスを見つめます。だから、生徒の一人ひとりに向き合い、力が出て行く経験を重ねていきます。

「言葉と行動に生きる」



中学校・高等学校校長 堀岡 満喜子

「子ども、言葉や口先だけではなく、

行いと真実をもつて愛するではありませんか。」

ヨハネの手紙一 三章一八節

同窓会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。昨年度もなかなか皆様にお会いすることができませんでした。クリスマスのお祝いも、卒業生に対して記念品を頂戴するなど変わらぬ母校への思いを届けていた

き有難うございました。本校、神を見上げつつ、今もミッションの心に歩んでいます。

今年の校長方針を導いているのは、冒頭のヨハネの手紙の言葉です。これは、まさに神ご自身。口先で愛や救いを語るだけのお方ではなく、私たちの現実に飛び込んでくださるお方ですから！この言葉に支えられつつ、今年も言葉と行動を大事に学校生活の中で成長していきたいと願っています。特に「言葉の力」の強

化を大事にするため、読書通帳システムを図書室に導入しました。本を読むことで育まれるものは大きいと考えています。今年の春、中学校は子どもの読書活動推進フォーラムにおいて、読書活動の優秀実践団体として表彰されました。



今年は、中学校三七名、高校三二七名の新入生を迎えました。中学校の野球部は三年目に入り単独チームが組めるようになり、高校のフットサル部はサッカーの公式な大会に出場することもできました。限りある中、生徒たち、与えられた日々を大いに楽しんでいきます。本校は、ずっと神の愛と恵みに支えられて歩んできました。今年も、さらに喜んで前進していこうと思っています。同窓会の皆様には、毎年、本校の生徒たちに目にとめていただき、ご支援いただいておりますことを、心より感謝いたします。私たちも卒業生の皆様を覚えて、いつも、祈っています。

〈二〇二二年度 活動報告〉

【期間】

二〇二二年九月一日～二〇二三年八月三十一日

第126回総会中止により行事計画につきましては、その折々の状況をみて行いました。

- 二〇二二年
- 9月 第126回総会 (中止)
- 10月18日 バイブルクラス
- 11月15日 バイブルクラス
- 12月13日 バイブルクラス (クリスマス礼拝)

- 二〇二三年
- 2月 同窓会費、部・同好会活動支援金納付案内発送
- 2月14日 バイブルクラス (中止)
- 2月28日 新会員入会式 (記念品として、クリアファイルとシャープペンシル贈呈)
- 3月14日 バイブルクラス (中止)
- 3月14日 中学校卒業式 (お祝として同窓会せんべいを贈呈)
- 4月11日 バイブルクラス
- 5月16日 バイブルクラス (自宅礼拝)
- 6月13日 バイブルクラス
- 7月11日 バイブルクラス
- 7月中旬 会報「61号」発行
- 8月 同窓会バザー (中止)

2021年度 部・同好会活動支援金の使途

- 2017年度 クッキングクラブ 最新冷蔵庫
- 2018年度 吹奏楽部の楽器 ホルン購入
- 2019年度 " 一部負担
- 2020年度 合唱部の楽器
- ハーモニーディレクター購入
- 2021年度 テニス部の夜間照明購入
- 一部負担



テニスコートの照明

贈呈の後、校長先生から御礼の言葉を頂き、最近の学校の様子をお聞きしました。



石川県高等学校総合体育大会テニス競技において優勝して、喜びに溢れているテニス部員達です。



「コロナ禍での生き方」

見條 喜久子
(西高)
(S 23年度卒)

五月の陽光に若葉は、キラキラ光っています。両手を挙げて、深呼吸を思い切りしたい。新型コロナウイルスが、突然舞い込んだ日、人々は皆恐怖に陥りました。初めて買い物に出て、香林坊大通りの行き交う人々のマスク姿に、異様な雰囲気がかもし出しているのに驚き、一瞬アニメ映画の『風の谷のナウシカ』の毒に汚染された町の光景が脳裏を横切りました。

私が入会している北國新聞社のくらしの日記の集いでも『二月の新年会、六月の研修日帰り旅行、一〇月の北國新聞会館での勉強会』など全ての行事が二年間無くなりました。

毎日報道されているコロナ感染者数に、一喜一憂しています。そして、今は皆、マスク生活が自然体となって暮らしています。

店の仕事が一段落すると、マスクを縫つのが日課になりました。小学校時代の友人の金港堂さんからYシャツのハギレを買って、せつせと縫っています。柄を合わせ、友人の顔を思い浮かべながら、裁縫することになるなんて、コロナになる前まで思いもよらなかった。

私の作ったマスクは『息がしやすい』とか『オシャレな形』と言われており、『長生きのお裾分けよ。』と言って、差し上げて喜ばれています。時々、石川県民割や市民割の恩恵を受けて、市内のホテルへ出かけ、命の洗濯もしました。今朝は、いつものように植木に水をやって



「つながりの中、今を生きる」

九良賀野 佳代子
(泉)
(S 49年度卒)

若き日、夏休みに平和教育で広島を訪れ、サマーキャンプでキャンプファイヤーの炎を見つめて友と語り、冬の市内をクリスマス・キャロルで歩き、修学旅行は大阪万博でした。コロナ禍の今では何一つ実行不可能な行事だったと懐かしくセーラー服の頃の出会いと繋がりが思い出されます。

先日偶然に新聞記事に同級生の名前を見つけました。フランス在住の村山(旧姓桑原)京子さんの作品展を21世紀美術館でやっているというものでした。早速出かけました。ご主人とお友達のガラス、草花、帽子の三人展でした。懐かしく話しかけているうちに又、別の友達の名前も出てきました。「さっき、まどかも来ていっ

“卒業生はいま…” コロナ禍の中で

「コロナ禍での気づき」

表 晋太郎
表 春菜
(津田)
(H 24年度卒)

私たちは平成二二年に北陸学院高等学校に入学し高校生の時からの交際を経て令和二年に結婚しました。昨年には第一子にも恵まれ家族三人で賑やかな日々を過ごさせていただいております。

さてコロナ禍での近況ですが、私は現在、消防署で主に救急隊として勤務しております。ここでも少なからず新型コロナウイルスの影響というものはあって、新型コロナウイルス感染者の搬送や救急要請を受けて行った先の患者が感染していたなんてことは日常茶飯事です。自分が感染してはいけない、家族に移すわけにはいかないという気持ちで、ある種のプレッシャーを感じながら日々の業務にあたっております。

そんなある日の真夜中のこと、突然父から「お爺ちゃんが亡くなりました」との電話を受けました。心筋梗塞でした。病院に搬送された祖父の姿をみて、「昨日のお昼までは元気に話をしていたじゃないか。」と思わず口を閉じました。仕事では何度も経験しているはずのその



いると、空から大きな声で、『ホーホケキョ』とウグイスが突然鳴いて、うれしさが込みあげ、二年間音信不通だったのになんと戻って来てくれました。きつと良い事が起こりそうな予感がします。主の恵みが、ウクライナの國の人々の上にも一日も早く幸せが与えられます様に祈っています。



光景に私は声が出ず、頭が真っ白になりました。こんなにも日常というものとは簡単に奪い去られていくものなのだと感じました。このコロナ禍においても同様です。私たちの当たり前の日常はこの数年で大きく変化しました。当たり前が当たり前ではないのです。普段何気なく過ごしている日常がいかに幸せなことであるのかを改めて実感しました。そしてまた一日一日を大切にすること、感謝することの大切さに気付かされました。

「コロナ禍での学生生活、そして社会へ」

細井 瑠菜
(H 29年度卒)

私は今春、大学を卒業し、地元金沢に戻り就職をしました。大学生活の半分はコロナのためにオンライン授業になり、就職活動もオンライン面接など今までとは異なる形態となりました。また学生時代、所属学科の学生団体の会長を務めていました。コロナ禍で対面授業がな

たよ」というのですぐメールしました。今は中後(旧姓中野)さんと言われ、現在ご自分のルーツを紐解いているという事でした。又、ご自宅に保管されている能面が貴重なものらしく今度金沢能楽美術館で展示されるということでした。一つの新聞記事から次々に友達の繋がりが広がっていききました。

私と言えば、現在石川県かほく市に住んでいますが、市は南ドイツのメスキルヒ市と三五年以上の姉妹都市交流があり、哲学者ハイデガーと西田幾多郎を生んだ町としての縁です。でも私の興味は、キリスト教の有名なマルティン・ルターとドイツの小さなオーバマガウ村のイエス・キリストの生涯を上演する演劇について知りたかった事がかほく市国際交流協会との出会いです。



ウクライナの人たちへの支援チャリティ

現在メスキルヒ市のウクライナから避難した八〇人以上の避難民支援のために、かほく市と共同して募金活動を行いました。今はかほく市国際交流協会で微力ながら様々な国の親子や働く人々と、一緒に日本語を学ぶためのお手伝いをしております。卒業後四八年、現在の私たちを予想できていたでしょうか。コロナ禍で不自由な今だからこそ、多様性と共生する社会を大切に守りながら、私たちの歩みを次に繋げていきたいと日々願っています。

なかなか友達や先輩との交わりが持てない新入生のためにも同期の友達と知恵を出し合い、オンラインでの交流会などを企画しました。どのような時でも創意工夫をすることができたのは、北陸学院時代に演劇コンクールやミッション祭などの様々な経験をさせていただいたからだと思います。そのため、コロナ禍であっても大学生活は実りあるものとなりました。

私は幼稚園から高校まで北陸学院で過ごし、小学校から高校までの一〇年間ハンドベルを続けました。時には大変なこともありましたが、奉仕の喜び、大切な仲間にも恵まれました。今年の五月の連休には、高校ハンドベルクワイアの演奏を当時の仲間たちと共に三年ぶりに集まり、聴くことができました。高校時代の思い出もよみがえり、泣いている仲間もいました。苦楽を共にした仲間なので、一生の私の友達です。幼い時からキリスト教教育の中で育ってきた私は社会人になり、初めて全くキリスト教と関わりのない社会に出ていきました。不安もありましたが、人を思いやる心、感謝する心など学校や教会で聖書を通して学んだことは社会人になった今、心の糧となり、日々楽しく仕事をしています。



楽都音楽祭にて春日先生を囲んで

バイブルクラスに参加して

大村 麗子

(S41年度卒)

栄光館に置かれていた赤いビロードの座布団が敷かれた懐かしい長椅子に座り、耳になじんだ讃美歌を歌い、皆で聖書を朗読。院長先生からのわかりやすい聖書のお話をお聞きする、まるで学生時代にタイムスリップしたかのような時間。

「新型「コロナウイルス」がまん延する前まで、月に一度同窓会館で開催されていたバイブルクラスに参加されたことはありませんか。信仰生活を送っていらっしゃる方だけではなく、日頃は礼拝から遠ざかっていらっしゃる方でも同窓生なら参加は自由。

礼拝後のお茶の時間も楽しみのひとつ。先輩も後輩もなく、同じ学び舎で学んだ同窓生として、時間を忘れ、話に花が咲きます。月に一度の大切な時間でしたが、感染防止の観点からこの二年間で開催できなかったのは残念ながら七回だけ。

「コロナ禍が収束し、バイブルクラスが会報の予定通りに開催できるようになりましたら、皆さんぜひ参加されませんか。役員さんが笑顔で出迎えて下さいますよ。」



2021.12.13 クリスマス礼拝

北野 陽子

(八田) (S43年度卒)

七十一歳になる今も本多町に住んでいますので、五〇年以上前から坂道を歩いてバイブルクラスに出席しています。新しい校舎を通り古い同窓会館に入ると、同窓会の方々が、暖かく迎えて下さり、昔に戻った気持ちになります。座ったままで讃美歌を歌う、私は耳が不自由なものですから毎回筆記して下さい。出席者一人一人に配慮されていてありがたいです。楠本院長のお話しも、日常生活においての励ましとなる聖書の箇所、元気が出てきます。短い時間ですが、貴重な時間となります。終わりに、堀岡校長先生より、今の高校のお話しを聞くことが出来ることも、嬉しいことです。もっとまじめに、毎日の学校での礼拝、聖書の時間を受けていたらと思うこともありすが、バイブルクラスに出席して取り戻せている気持ちになり、孫が赤い制服を着ているのを見る幸せと共に、出席できる幸せをかみしめています。

支部だより

関東支部



倉島 尚美 (朝倉) (S38年度卒)

同窓会の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。家の周りにも、花々が咲き出し街中がカラフルになり、ほっとしています。

「コロナ禍にあつて、役員の皆様と会って相談することも出来ず、メール、FAX、電話などで連絡を取り合い今年も関東支部総会を中止いたしました。会員の皆様には、次のお知らせをいたしました。活動は出来ませんが、楽しくおしゃべりできる時を希望をもって待ちたいと思います。」

主の御名を賛美いたします。いろいろとごりの花が春の訪れを知らせてくれる頃となりました。同窓生の皆様お元気でお過ごしでしょうか

「コロナ禍ももう三年目になります。まだ収束の目処が見えません。今年こそは同窓会開催を願っておりますが、決断の厳しい状況です。オンラインや、食事なしでの開催なども検討いたしました。やはり共に礼拝の時を持ち、皆様とお弁当をいただきながら、おしゃべりができる例年通りの関東支部総会開催を目指して、もう一年我慢しよう」と

の結論に至りました。

つきましては、二〇二二年度北陸学院同窓会関東支部総会を中止いたしますことをお知らせいたします。

二〇二二年四月

北陸学院同窓会関東支部

関西支部



中村 彩子 (S55年度卒)

「コロナ禍の中でも季節は確実に巡り、また暑い夏を迎えようとしておりますが、世界では大変怖い思いを強いられている人々に、心痛める毎日もあります。関西支部は今年で発足五十年目になりましたが、毎秋に開催してありました同窓会も昨年、一昨年は皆で集うこともなく、残念な時が過ぎました。」

そんな状況ではございますが、会員の方から「来年はまた楽しい集まりの会を計画してくださいね」とお葉書をいただいたり、「こんなきれいなお花が咲きました」とお写真を送ってくださいたり…お目にかかれなくても心のつながりを感じ、嬉しい出来事もたくさんございました。うれしい限りでございます。今秋にはお一人でも多くの同窓生の方と親交を深められるよう、関西地方だけではなく、広く西日本にお住いの方々とお目にかかりたいと思っております。

一日も早く世界中が笑顔で過ごせる日が訪れますように、お祈りいたします。

毎年バイブルクラスは年間九回、同窓会館で礼拝が守られています。院長先生が聖書のお話をして下さり、毎回二十数名の方が参加されます。年齢も様々ですが、同じ学校で学んだ者同士、すぐに仲良くなれるのは不思議です。

しかし今年度は「コロナ感染拡大のため、数回（クリスマス礼拝を含む）のみの開催となりました。五月はいつも来られる方々に、先生のメッセージと共に式次第をお送りし、家庭で礼拝を守ってもらいました。茶話会は中止とし、十分な感染予防を行い、参加下さった方々にもご協力頂き、恵み豊かな礼拝が守られましたことを心から感謝致しております。来年度は別記の通りです。感染状況が収まって、バイブルクラスが予定通り行われますようにと心から願っております。

宗教部 黒瀬 千鶴

《2022年度 バイブルクラス予定》

場所：同窓会館（13：30～）
（お話）学院長 楠本史郎先生

	月日	備考
2022年	9月 5日 (月)	
	10月 17日 (月)	
	11月 14日 (月)	
	12月 12日 (月)	クリスマス礼拝
2023年	1月	お休み
	2月 13日 (月)	
	3月 7日 (火)	
	4月 17日 (月)	
	5月 15日 (月)	
	6月 12日 (月)	
	7月 10日 (月)	
	8月	お休み

クリスマス礼拝は準備の都合上事前に参加をお知らせ下さい

東海支部



八木 寿満子 (西村) (S37年度卒)

今年も支部便りをという依頼を頂いたのですが、なかなか活動できない状態の上この「コロナ禍」で自分か思うほど動けないということがつくづくわかりました。なにか少しでもお役に立つことがあればという気持ちでお役を引き受けたのですが、さっぱり行動が伴わない状況で申し訳ない気持ちで一杯です。そこで私の同窓会に対する気持ちを伝え出来ればと思ひ、書いた次第です。

一〇代が多感なときに北陸学院で過ごせたことは私にとって大きな心の財産でした。卒業してから始まった現実的な生活の中では生きていくことで精一杯でした。少し落ち着いてきたときに、振り返ってみますとやはり神が常に私を見守っていてくださったように思います。

どうぞ、同窓会も世の中がどんな状況になろうとも押し倒されることなく、遅しく脈々と存続されますように祈っております。

編集後記

マスコク生活も三年目となりました。「コロナ禍」の皆さまが活躍なさってあらわれる姿が今回の原稿によって知る事が出来ました。とっても嬉しいことです。With「コロナ」の中、新しいスタイルを考えながら同窓会も今なすべきことを考えていきたいと思ひます。

北陸学院同窓会

第127回総会中止について

今年の第127回総会はコロナウイルス感染がまだ終焉の見込みが付きません。日々の感染状況を見ておりまして一向に少なくなることがありません。

そこで誠に残念ですが大事にならないように今年も中止といたします。会報で御報告させて頂きましたように2021年度の行事もクリスマス礼拝と何回かのハイブルクラスのみとなっております。2022年度の議案の行事計画につきましてもその折々の感染状況を見て対応していきたいと思っております。

今年役員改選の時期に当たります。新役員を選考につきましては役員会に一任して頂けないでしょうか。この2件の議案につきましては過日、常任幹事会(書面)においてご了承頂いております。皆様にはぜひこの情勢を鑑みてご承認して頂きたいと思っております。

同封のおはがきに議案を提案致しますので7月31日までにお返事いただけますよう、よろしくお願いいたします。尚、ご返信がない場合は執行部に一任という形にさせていただきます。

北陸学院同窓会第127回総会審議事項
総会を行うことができませんので、書面にて議決を取りたいと思っておりますのでご協力をお願いいたします。

1. 行事計画について
その時々に応じて対応する 承認・承認しない

2. 役員案について
再任又は新任につきましては、役員会に一任する 承認・承認しない

3. その他ご質問、ご意見

ご住所 〒
お名前
電話番号 () -
卒業年度または生まれ年
昭和・平成・令和 () 年度卒 / () 年生まれ

二〇二二年度役員及び支部役員

名誉会長	北陸学院学院長 楠本 史郎先生		
顧問	北陸学院中学校、高等学校長 堀岡 満喜子先生		
会長	堀岡 満喜子	(安井)	S 30年度卒
副会長	小崎 淳子	(小崎)	S 39年度卒
同	若林 恵子	(安田)	S 37年度卒
同	須加 二葉子	(長田)	S 39年度卒
総務	北村 まや	(松永)	S 60年度卒
書記	池田 寿美	(米崎)	S 60年度卒
同	瀨澤 由香	(瀨澤)	H 5年度卒
同	汐井 理美		H 8年度卒
会計	北川 章子	(楠木)	S 48年度卒
同	玄田 博子	(山崎)	S 48年度卒
宗教部	黒瀬 千鶴	(富久尾)	S 39年度卒
同	九良賀野 佳代子	(泉)	S 49年度卒
会計監査	安田 利子	(安田)	S 31年度卒
同	大村 麗子	(谷)	S 41年度卒
能登連絡員	井田 茂美	(井田)	S 43年度卒
関東支部	田中 美智子	(北川)	S 31年度卒
顧問	倉島 尚美	(朝倉)	S 38年度卒
支部長	伊澤 しのぶ	(都田)	S 36年度卒
副支部長	島田 幹子		S 41年度卒
同	久保田 ゆずり	(井上)	S 59年度卒
会計	中 礼子	(安岡)	S 60年度卒
庶務	本江 理恵		S 60年度卒
関西支部	中村 彩子	(吉野)	S 55年度卒
支部長	堀江 芳美	(若林)	S 42年度卒
同	森 郁子		S 50年度卒
東海支部	八木 寿満子	(西村)	S 37年度卒

事務局便り

【北陸学院同窓会館】

〒920-8563
金沢市飛梅町1-10
TEL 076-261-1868
FAX 076-261-2268
《Eメールアドレス》
hsdoso@hokurikugakuin.ac.jp

- 同窓会館は毎週 月・水・金曜日の午後1時から4時まで開いています。住所変更・改姓などの連絡事項がありましたらお知らせ下さい。
- お近くにいらした際はぜひお立ち寄りください。同窓会館はいつも開放しております。

同窓会費

一年分 一、〇〇〇円(何口でも可)

部・同好会活動支援金

一口 一、〇〇〇円(何口でも可)

《ゆうちょ銀行》

〇〇七〇〇一六八五五

北陸学院同窓会

(随時受け付けております。)

同窓会バザーについて

毎年、ミッション祭に合わせて行われておりました同窓会バザーはコロナ感染の密を避けたいため、中止といたします。